

👋 手話サークル研究班 👋

～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」という気持ちを持っていただければと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月。9名のメンバーで発足。

☆2004・2005年9月の神通研集会・第1分科会「サークル」を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2006年6月現在、川崎3、横浜2、県域11 計16名で活動中！

～ 定例会 ～

地域サークルの様子や情報交換等を行っています。

☆6/25 定例会報告

8/27の集会に向け、最終確認。今年度のテーマは「見つめ直そう、ろう者とのコミュニケーション」と題し、まずろう者に伝えたい、ろう者の言っていることをわかりたいという気持ちが必要。手話を知り、ろう者と出会い、気が付いたこと、知りたいことを気軽に話し合ってみたいと思います。

班メンバーの意見交換の中では、自立支援法について、手話技能検定について、また生き方・考え方が多様化している社会の中で、「こうあらねばならない」という縛り方は出来にくく、手話について、ろう者についてどのように伝えていけばよいか等、話は尽きない定例会でした。

【次回定例会】

7月22(土) 10:00～12:00

かながわ県民センター12F・ボランティアコーナー
神通研会員のみなさま、お気軽にご参加下さい。

～ '05年神通研集会 第1分科会報告～

S20～40年頃まで手話は「手まね」という言葉で表され、言語ではないと思われていました。ろう者の基本的人権を主張していくために手話を広めていく運動が広がり、S45年から開始された手話奉仕員養成事業をきっかけに手話が積極的に広まりました。

でも、ろう者にとって運転免許取得時の適性検査、文字情報の不足等、まだまだ様々な問題に直面しています。手話を学びながら、地域の仲間としてサークルに出来ることは何か？ろう者が抱えている問題や解決方法を理解し合うことが大切です。

～サークル研究班メンバーのささやき～

紫陽花のきれいな季節になりました。

この時期はムシムシ、ベタベタと嫌な季節ですが、雨にぬれた紫陽花はとてもきれいで、蒸し暑さを忘れさせてくれますね。

そんな季節の真っ只中での定例会に出席してびっくり！先輩方のサークルや手話にかける情熱はすごい！！

あっという間に蒸し暑さが吹っ飛び、紫陽花のように爽やかな笑顔が満開の定例会でした。<ピヨピヨ>